

# 谷川俊太郎と絵本の仲間たち

## —堀内誠一・長新太・和田誠—

えほんのふるさと

谷川俊太郎

せんでできてるえほんのみちを  
よしみちしながらあるいていって  
いろでてきてるひろばにでたら  
はじめてのうたがきこえてきたよ

おばあさんがこぐまとおどって  
おじいさんがいるかとおよいで  
ないてることもがわらいだす  
ここではだれもしないんだって

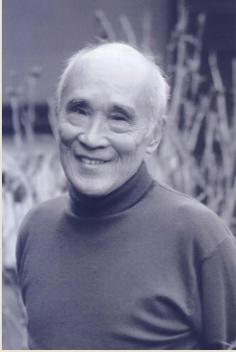
あまのがわがせせらぎになって  
えほんのもりをながれてる  
えほんのみちのじゅうじろに  
たってることばのみちしるべ

みぎへいったらちへいせん  
ひだりへいったらすいへいせん  
とちゅうでわざとまいごになれば  
ほんとのじぶんにあえるかも

\*本展書き下ろし

詩人として、長年第一線で活躍してきた谷川俊太郎。現代詩の世界にとどまらず、ジャンルを超えて精力的に展開されるその活動は、半世紀以上にわたり、人々を魅了し続けてきました。とりわけ、翻訳を含む絵本や子どものための本の仕事は、谷川の仕事のなかでも大きな位置をめています。

本展では、谷川自身、「特別な存在」と語る堀内誠一、長新太、和田誠との仕事をとりあげ、三者三様の個性が光る多彩な絵本の世界を紹介します。



**谷川俊太郎** (たにかわ しゅんたろう)  
1931-  
東京生まれ。1952年、詩集『二十億光年の孤独』でデビュー。詩作のほか、翻訳、エッセイ、シナリオ、絵本、作詞などジャンルを超えて活躍。各地での朗読ライブ活動も精力的に行っている。1962年『月火水木金土日の歌』で日本レコード大賞作詞賞、1975年『マザー・グースのうた』で日本翻訳文化賞、1982年『日々の地図』で第34回読売文学賞、1985年に『よしなうた』で現代詩花椿賞、1993年に『世間知らず』で萩原朔太郎賞、2005年『シャガールと木の葉』『谷川俊太郎詩選集1～3』で第45回毎日芸術賞、2008年に『私』で詩歌文学館賞、2010年に『トロムソコラージュ』で鮎川信夫賞を受賞。

撮影：菊地一郎

### 展示関連イベント ※詳細は随時、ちひろ美術館ホームページでご案内します。 ※イベント参加費のほか、別途入館料が必要です。(高校生以下は入館料無料)

#### ●対談 谷川俊太郎×和田誠

名コンビとして知られるふたりが、絵本や創作について語ります。

11/12(土) 17:30～19:00

定員：80名(要申し込み、10/12より受付開始) 参加費：700円

#### ●対談 谷川俊太郎×内田也哉子

3児の母として、文筆家・翻訳家として、日々絵本に接している内田さん。絵本の魅力について語り合います。

11/26(土) 17:30～19:00

定員：80名(要申し込み、10/26より受付開始) 参加費：700円

内田也哉子(文筆/音楽活動 sighboat)

子供時代を日本、アメリカ、フランス、スイスなどで転々と過ごす。文筆活動の主な作品に『会見記』『BROOCH』『ラプンツェル』など。翻訳絵本に『たいせつなこと』『岸辺のふたり』など。音楽ユニット sighboat では、作詞、ヴォーカルを担当。今年、2nd アルバム marvel をリリース。http://labels-united.jp/ 現在は夫で俳優の本木雅弘と共に、3児の育児中。

#### ●ギャラリートーク

毎月第1・3土曜日 14:00～ 参加自由

☆会期中限定販売☆

ちひろ美術館オリジナル「開運!俊みくじ」

展覧会を記念し、谷川俊太郎さんが特製おみくじを書き下ろしました。全50種、あたりくじ付き。

※予定枚数に達した時点で終了する場合があります。

#### ●谷川俊太郎×谷川賢作「ことばと音楽であそぼう! 谷川親子による子どもワークショップ」

2012年1/8(日) ①11:00～12:00(対象:小学1～3年生)

②13:30～15:00(対象:小学4～6年生)

定員:各回40名(要申し込み、12/8より受付開始) 参加費:500円

## 谷川俊太郎と絵本の仲間たち

## ○堀内誠一 …粋なまなざし

「大変すぐれたエディターだった」と谷川が回顧するように、堀内誠一の仕事は、イラストレーター、デザイナーの粋にとどまらないダイナミックなものでした。異例のミリオンセラーとなった『マザー・ゲースのうた』（草思社）をはじめ、時代を超えて読み継がれる作品の数々を紹介します。

**堀内誠一**（ほりうち せいいち）1932-1987

東京向島生まれ。図案家だった父の影響で、幼い頃から多くの絵本や映画、ポスターに親しんで育つ。1947年、14歳で新宿伊勢丹百貨店宣伝課に入社、装飾係員として働く。1956年、伊勢丹百貨店を退社、同年アド・センター創立に参加。1958年に最初の絵本『くろまブランキー』を出版。以後、多数の絵本を制作。1969年、アド・センターを退社。1974年に家族とともにフランス・パリ郊外アントニーに移住、1981年まで居住し、パリを拠点に各地を旅する。著書に自伝『父の時代 私の時代』、編著書に『絵本の世界・110人のイラストレーター』などがあり、国内外のすぐれたイラストレーションの紹介にも努めた。

展示予定作品：『マザー・ゲースのうた 全5集』（草思社）、『かつきくけっこ』『いくつかな』（以上くもん出版）、『わらべうた』（富山房）、『24にんのわらうひとつともうひとり』（ポプラ社）、『ピアノのすきなおうさま』、『セカイのハジマリごっこ』ほか



1 堀内誠一 『マザー・ゲースのうた 第2集』（草思社）より 1975年

## ○長新太 …ノンセンスへの憧れ

意味から逃れられない「ことば」をあつかう詩人でありながら、ノンセンスへの憧憬を抱いてきた谷川は、長新太の絵に、常に驚かされ、魅せられてきたといえます。ことばに呼応し、意味を軽々と飛び越えて広がる長新太の作品をお楽しみください。



**長新太**（ちょう しんた）1927-2005

東京生まれ。1948年、東京日日新聞のマンガコンクールに一等入選し、漫画家となる。1958年、堀内誠一の勧めで、最初の絵本『がんばれ さるのさらんくん』で文藝春秋漫画賞、1981年『キャベツくん』で絵本にっぽん大賞、2005年『ないた』で日本絵本大賞はじめ受賞多数。柔軟で斬新な発想の絵本を発表し続け、日本の絵本界にノンセンスの分野を切り開いた。

展示予定作品：『わたし』（福音館書店）、『えをかく』（講談社）、『にゆるぺろりん』（クレヨンハウス）、『日本語のおけいこ』（理論社）ほか

2 長新太 『えをかく』（講談社）より 2002年

## ○和田誠 …ユーモアの深み

1965年、和田誠が限定500部の私家版としてつくった絵本『しりとり』の共作をきっかけに、次々と斬新な絵本や子どもの本を発表してきた谷川と和田。和田誠の絵を、谷川は「地に足のついたユーモア」と評し、その深い信頼関係のなかから数々の名作が生み出されました。半世紀近くにわたる“名コンビ”の息の合った仕事ぶりを紹介します。

**和田誠**（わだ まこと）1936-

大阪生まれ。1959年に多摩美術大学図案科卒業後、デザイン会社ライトパブリシティに入社、1968年よりフリーランスとなる。1960年代から自費出版で絵本をつくり始め、以後、出版された絵本は50冊以上にのぼる。1969年文藝春秋漫画賞、1974年講談社出版文化賞（ブックデザイン部門）、1997年毎日デザイン賞、1994年菊池寛賞、1997年展覧会「時間旅行」で毎日デザイン賞を受賞。デザイン、イラストレーションのほかに、作詞・作曲、エッセイ、翻訳、映画監督など、幅広い分野で活躍している。

展示予定作品：『これはのみのぴこ』（サンリード）、『あな』『とぶ』（以上福音館書店）、『マザー・ゲース』（講談社）、『あくま』『がいこつ』（以上教育画劇）、『もりのくまとティピベア』（金の星社）ほか



3 和田誠 『もりのくまとティピベア』（金の星社）より 2010年

# ちひろの白

ちひろの絵に必ずといってよいほど使われている色——それは、“白”。

ちひろの白は、さまざまな色彩をひとつにまとめ、輝かせる、要の色です。

本展では、カラリストといわれるちひろの色のなかでも、“白”に注目し、その表現の巧みさ、美しさに焦点をあてます。



5 やぎと男の子 1969年

## 白いシルエット

にじんだ色のなかに子どもたちのシルエットを白く浮かび上がらせる表現は、ちひろ独特の白の使い方です。白いシルエットが、周囲のにじみ合う色の美しさを引き立て、色にさまざまな意味を持たせています。



4 雪のなかを走る子ども 1970年

## 白を描く

子どもたちの白い服、真っ白な雪……ちひろは白の表現が巧みでした。白い紙に白いものをどのように描き出したか、ちひろの技を紹介します。



6 白い毛糸帽の子ども 1970年



7 クリスマスの詩 1965年



8 蝶とあかちゃん 1971年

## 白の意味

無数のイメージを内包する色といわれる“白”。晩年、ちひろは「単純化していくうちに白紙になってしまう」と語っていたといえます。色を抑えることで、かえって見る人の自由な想像を引き出す白は、限りない広がりを持った無限の色ともいえるでしょう。

特に、ちひろの絵のなかで、あかちゃんや子どもの姿を包み込むとき、“白”は純粋、無垢、そして母親の包み込む無償の愛をイメージさせます。

●無料感謝デー 12/11(日)

ちひろ美術館を支えてくださっている皆様へ、日頃の感謝の気持ちを込めて、入館料無料の感謝デーを開催します。当日は、さまざまなお楽しみ企画やプレゼントをご用意しています。皆様お誘いあわせのうえ、ぜひご来館ください。



●わらべうたあそび

12/3(土) 11:00～11:40

講師: 服部雅子

声を出して歌ったり、体を動かしたりしながら、親子で楽しく参加できます。0～2歳までの乳幼児と保護者対象。

定員: 15組30名

参加費: 無料 (入館料のみ、高校生以下入館料無料)

\*要申し込み 11/3(水)受付開始



●新春ワークショップ・ちひろの水彩技法体験  
「手づくりマグネット」

ちひろが得意とした、にじみの技法を体験しながら、オリジナルのマグネットをつくります。子どもから大人まで楽しめるワークショップです。

1/2(月)、1/3(火)

各日11:00～15:00(最終受付14:30)

会場: ちひろ美術館・東京

2Fエレベーター前

参加費: 100円

(入館料別、高校生以下入館料無料)



\*申し込み不要、当日参加受付

●松本猛ギャラリートーク

いわさきちひろの息子・松本猛が、母の思い出や作品にまつわるエピソード、展示のみどころなどを紹介します。

11/6(日) 14:00～ 展示室にて

\*参加自由

●ギャラリートーク

当館学芸員が、作品の解説や展示のみどころをお話します。

毎月第1・3土曜日 14:00～ 展示室にて

\*参加自由

●えほんのじかん

展示や季節にあわせて絵本の読み聞かせなどを行います。

協力: NCBN

毎月第2・4土曜日 11:00～ こどものへや

\*参加自由

●お正月  
年賀状プレゼント

お正月(2012年1月2日～)にちひろ美術館・東京にご来館された方に、先着でちひろ美術館特製の年賀状(非売品)をプレゼントします。

\*年賀状をご提示いただくと、次回来館時に2名様までご入館いただけます。

\*数に限りがございます。品切れの際はご容赦ください。

○ちひろ美術館・東京 次回展示予定  
2012年3月1日(木)～5月20日(日)  
ちひろと香月

～母のまなざし、父のまなざし～

\*安曇野からの巡回展、展示作品は一部変更されます。



湯あがりのあかちゃん 1971年



香月泰男 父と子 1969年(個人蔵)

○年末年始・冬期休館のお知らせ

ちひろ美術館・東京は、12月26日(月)～2012年1月1日(日)まで休館、新年は1月2日(月)より開館します。2012年1月30日(月)～2月29日(水)までは、館内整備のため冬期休館いたします。

\*計画停電などにより、開館状況に変更が生じる場合は、当館ホームページ及びテレホンガイドでお知らせします。

- 展示会期…2011年10月26日(水)～2012年1月29日(日)
- 開館時間…10:00～17:00(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日…月曜日(12/26～1/1は休館。1/30～2/29は冬期休館)  
(但し、祝日は開館、翌平日休館。1/2・1/9は開館、1/10は臨時休館)
- 入館料…大人800円/高校生以下無料  
団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は100円引/障害者手帳ご提示の方は半額、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料
- 交通…  
○西武新宿線上井草駅下車徒歩7分  
○JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分  
○西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分  
○駐車場あり(乗用車3台・身障者用1台)

